

群馬県立伊勢崎特別支援学校の地域支援部です。訪問相談では大変お世話になっております。たくさんの保育所、幼稚園、小中学校等で先生方の丁寧な実践に触れさせていただき、また、かわりや支援方法について先生方とじっくりと話をさせていただき、とても貴重な機会をいただきました。ありがとうございました。

いせとく通信第3号では前号に続き、相談やアンケートの回答であげていただいたニーズや課題に対して、情報提供をさせていただきます。

子どもの困り感 その3

板書することが難しい

〇背景として考えられること

- ・字を書くこと自体が苦手（空間把握や微細運動など）
- ・黒板のどこを見ていいのかわからなくなってしまう（注意）
- ・目で見ただけで文字を書こうとすると忘れてしまう（視覚的な記憶の保持）
- ・書きたくない（モチベーション）



このような困難を抱えるお子さんにとって、先生の話聞いて、黒板を見て、ノートに書くという作業は、一度にやるのがたくさんありすぎて、とても大変なことです。書くことにいっぱいになって、先生の話聞くことや内容を理解することまでたどりつかなくなってしまう。



〇まずは、子どもの負担を減らすことから ～授業のユニバーサルデザイン化

1 板書の内容を整理する

重要なところは色を変える、枠で囲む。

2 書く量を減らす

重要なところだけ写す。

板書内容のプリントを渡す、カメラで撮影する。

3 写す時間を確保する

4 黒板周りを整理する

教室前側の掲示物を減らし、教室側面、後方に掲示する。

教室環境のユニバーサルデザイン化～

環境へのアプローチの視点から本人の負担を減らす方法をあげました。

板書（書くこと）が苦手という、個人の特性へのアプローチもありますが、個々の理由や背景により適切な方法が異なります。必要があれば、サポート事業をご利用いただき、お子さんの実態に応じた支援を、担任の先生と一緒に考えたいと思います。

〇こんな状況ありませんか…

- ・座っているときに椅子をガタガタ揺らす、足をバタバタさせている。
- ・活動中、授業中に立ち歩いてしまう。
- ・他のことに気持ちが向いてしまい、集中できない。



〇背景として考えられること…

1 感覚の発達に関係している

- ・バランス感覚や筋肉や関節の運動に関する感覚がうまく働かないことが考えられます。感覚がうまく入らないため、じっとしていると落ち着かなくなり、自分で刺激を取り入れないと苦痛な状況になります。
- ・情報の取捨選択ができず、見たものや聞いたものを次々と受け取っていることが考えられます。気が散りやすく集中することが難しくなります。

2 活動内容に関係している

- ・何をするかわからない状況は、子どもにとってとても不安で落ち着かなくなります。
- ・活動内容、学習内容が難しい、できない状況でも、集中することが難しくなります。

〇こんなことから取り組んでみよう

1 楽しく身体を動かして、身体感覚を整える

- ・バランスボールやアスレチック遊具、相撲遊び等を行う。
- ・リズム遊びで、止まる動きやゆっくりした動きを取り入れる。



2 活動や授業の中で動きを入れる

- ・のりやはさみ、制作の材料を取りに行く時間をつくる。
- ・じっとしているのが苦手な子に配る係等をお願いする。

3 教室環境を整える

- ・使わないものは片付ける、カーテンで隠す。
- ・掲示物を整理する。



4 活動内容を見直す

- ・やることを伝えて、活動の見通しが持てるようにする。
作業手順や授業の流れ等を、黒板に書いたり、紙に書いて貼っておいたりする。
- ・難しいところがあれば、支援したり、内容を変えたりする。

◎問い合わせ・連絡先

群馬県立伊勢崎特別支援学校(地域支援部)
TEL:0270 — 25 — 4461
FAX:0270 — 21 — 8653
E-mail:isetoku-sodan@edu-g.gsn.ed.jp
担当:専門アドバイザー 福田 さとみ

わかりにくいところ、もっと詳しく聞きたいところ等ありましたら、いつでもお気軽にお問い合わせください。

